

# スーテントカプセルについて

## 1. 治療のながれ

### 治療スケジュール

通常「6週間」を一区切り（1コース）として治療します。

副作用の程度や体調によって治療計画を変更することがあります。

1コース						2コース					
週目	2週目	3週目	4週目	5週目	6週目	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	6週目
スーテント服薬				スーテント 休薬		スーテント服薬				スーテント 休薬	

➡ 繰り返します

### 使用する薬剤と用法

1日1回4カプセル（50mg）を服用します。

- 血液検査の結果や問診による自覚症状の有無を確認し、化学療法実施の決定を医師が行います。
- 副作用の出現状況や体調に応じて、減量や休薬することがあります。

スーテントカプセル  
12.5mg



## 2. 服用するときの注意点






- ① 服薬期間と休薬期間を必ず守ってください。
- ② グレープフルーツジュースを飲むと、副作用が現れる可能性が高くなります。スーテント服用中は飲まないようにしてください。
- ③ 飲み忘れた時は、飲み忘れた分をとばして（服用せず）次の回から1回分のみを服用してください。絶対に2回分を一度に飲まないでください。また、ご自身の判断で、用法用量を変更しないでください。

## 3. 予想される副作用

- 副作用は、治療内容や個人個人で症状の現れ方や程度が異なります。このため、副作用が出現した場合は、早期に対応できるようにすることが重要です。
- 副作用は、治療開始後すぐに起こる症状や、治療を繰り返すことで起こる症状があります。
- 副作用は「自分でわかる症状」と「血液検査などでわかる症状」があります。

副作用の特徴を理解し、体調に異常を感じた場合はすぐにお知らせください。



▼ 「自分でわかる症状」

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
<p>手足症候群</p> 	<p><b>皮膚の変色や腫れ、水ぶくれなど。</b> おもに上半身（顔や頭皮を含む）に現れます。 日常生活に支障がないように症状をコントロールすることが大切です。日頃から保湿を心がけてください。 症状の程度によって、休薬やステロイドの外用剤を使用します。</p>
<p>出血</p>	<p><b>血便、血痰、鼻血、爪の中の出血</b> 血がなかなか止まらないことや、傷が治るまで時間がいつもよりかかることがあります。このような症状が出現した場合はすぐに報告してください。</p>
<p>動悸、息切れ、むくみ</p>	<p>心臓の機能への影響が考えられます。症状出現時はすみやかに主治医に連絡して医療機関を受診してください。</p>
<p>吐き気・嘔吐・食欲不振</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投与後すぐに起こる場合</li> <li>・投与翌日から 1 週間ぐらいの間に起こる場合</li> <li>・投与前から起こる場合</li> <li>・食事のにおいなどで起こる場合</li> </ul> <p>この以外にも変わったことがあった場合は報告してください。 吐き気止めや症状や原因に応じてその他の薬剤を使用します。</p>
<p>下痢</p> 	<p>普段から便通の状態を把握するように心がけてください。 腹痛が続いたり、下痢の回数が多い場合は報告してください。 症状が出現したときは水分補給をこまめに行ってください。 症状に応じて、下痢止めや水分補給のための点滴を使用します。</p>
<p>間質性肺炎</p>	<p><b>かぜの様な症状（息切れ、呼吸がしにくい、咳、発熱など）</b> 症状が現れたり、ひどくなったりした場合は、すみやかに主治医に連絡して医療機関を受診してください。</p>
<p>疲労感・倦怠感・発熱</p>	<p>無理をせず、十分な休息とるようにしてください。 肝機能の状態が影響して症状が出現する事があります。 発熱の症状に応じて解熱剤を使います。</p> 
<p>高血圧</p>	<p>我慢できないほどの頭痛や吐き気、意識がもうろうとする。 治療として一般的な降圧薬による治療が行われます。 急激な血圧上昇は脳やその他の臓器に障害につながるため、治療期間中は定期的に血圧測定してください。</p>
<p>口内炎・歯肉炎</p> 	<p>口の中を清潔に保つように心がけてください。 刺激の強いものや極端に熱いものはなるべく避けてください。 痛みで歯磨きができない場合でも、うがいはしてください。 症状が出現時は、軟膏やうがい薬を使用します。</p>

▼「検査でわかる症状」



定期的に検査を行い、問題ないことを確認していきます。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
<p>白血球・好中球減少</p> 	<p>感染症にかかりやすくなります。感染予防を心がけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰宅時に手洗い、うがいを行う。</li> <li>・歯みがきは口の中を傷つけないように気をつける。</li> <li>・風邪など感染症にかかっている人に近付かない。</li> </ul> <p>風邪などの症状がある場合は早めに受診するようにしてください。 減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。</p> 
<p>赤血球減少</p> 	<p>めまい、倦怠感、息切れなど貧血時に見られる症状が出現します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。</li> <li>・減少の程度では、輸血することがあります。</li> </ul>
<p>血小板減少</p> 	<p>出血しやすくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怪我や内出血（打ち身などによる）に注意してください</li> <li>・覚えのない内出血や血便が見られたときは報告してください</li> <li>・減少の程度に応じて輸血することがあります</li> </ul>
<p>腎機能 肝機能 電解質 などの項目も問題ないか確認していきます</p>	

ここに書いてある以外の副作用が現れるかもしれません。普段と何か違うな、おかしいなと感じたときは医師、薬剤師、看護師に報告してください。

治療を受けているときは、様々な不安や疑問を感じると思います。  
そのようなときは主治医、薬剤師または看護師にお気軽に相談してください。



鹿児島市医師会病院 化学療法委員会  
099-254-1125